

【 学力向上フロンティアスクール中間報告書 】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

大館市立川口小学校									
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	12
児童数	29	32	34	30	31	30	0	186	

実践研究の概要

1 研究主題

分かる喜び, できる楽しみを感じ, 自ら学ぼうとする子どもの育成 ~ 国語科・算数科の実践を通して ~
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年算数： 個人差が大きく, 子どもの理解度に差が生じやすい教科であり, TTによる指導改善を図ってきたこれまでの研究を生かしていけるため。 ・全学年国語： 「読むこと」の力を育てることは全ての教科の基礎となること, 少人数学習の成果を国語科にも広げていくことができるため。
--

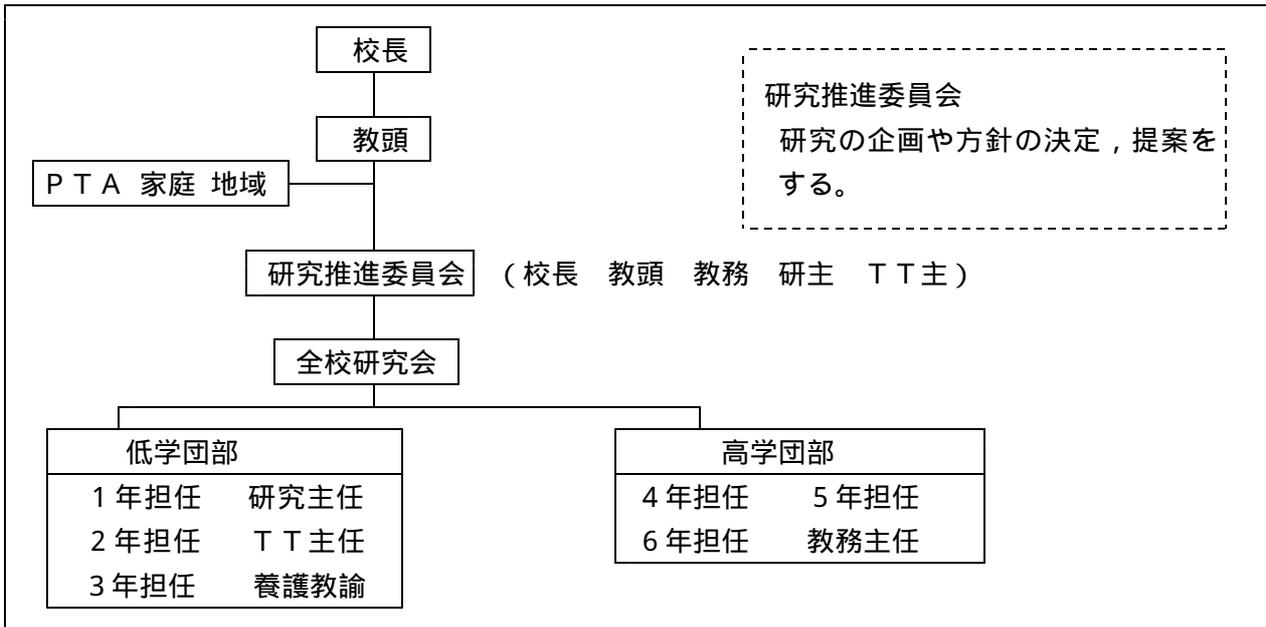
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 分かる喜び, できる楽しみを感じ, 自ら学ぶ子どもの育成 ~ 国語科・算数科の実践を通して ~</p> <p>仮説</p> <p>(1) 国語科・算数科において, 意欲を高める体験活動を取り入れた多様な学習活動を工夫し, 児童の実態に応じた課題や指導方法, 指導形態を工夫していくことで, 課題意識をもって取り組む子どもが育つであろう。</p> <p>(2) 一人一人のよさや変容をとらえる評価の工夫や適切な支援を行うことで, ねばり強く取り組む子どもが育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じるための指導方法や指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的, 問題解決的な学習の構想と推進 ・少人数学習等の学習形態の工夫 ・習熟の時間を設けた学習過程の工夫
--------	---

	<p>学習材の開発と環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な学習，補充的学習の工夫 ・ 算数コーナー，ことばのコーナーの設置 ・ 計算とことばのはげみ学習の実施と，漢字・計算テストの実施 <p>子どもの変容をとらえる評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準を明記した年間指導計画の作成 ・ 諸検査の結果分析による児童の実態把握 ・ 自己評価活動の工夫 ・ 個人の変容をとらえるカードの活用 <p>小・中の連携による指導方法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業交流の推進計画と学習に関するアンケート調査
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 分かる喜び，できる楽しみを感じ，自ら学ぶ子どもの育成 ～ 国語科・算数科の実践を通して ～</p> <p>仮説</p> <p>国語科，算数科において，意欲を高める体験活動を取り入れた多様な学習活動を充実し，児童の実態に応じた課題や指導方法，指導形態を工夫していくことで，課題意識をもって取り組む子どもが育つであろう。</p> <p>一人一人のよさや変容をとらえる評価の工夫や適切な支援を行うことで，ねばり強く取り組む子どもが育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じるための指導方法や指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定を大事にした体験的・問題解決的な学習の推進 ・ 問題解決の時間を確保し，習熟を図る時間を設けた学習過程の工夫 ・ ねらいに迫るための学習形態や指導体制の工夫 <p>学習材の開発と環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な学習や補充的な学習の学習材の開発と推進 ・ 子どもの思考の助けとなるような学習コーナーの充実 ・ 学習の基礎となる力の育成を図る，計算とことばのはげみ学習の工夫と充実 <p>子どもの変容をとらえる評価の工夫と指導の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準に沿った評価と，評価を生かした子どもへの適切な支援 ・ 子どもの変容をとらえる評価カードの活用 ・ 諸検査の結果分析による児童の実態把握と指導に生かす工夫 ・ 自己評価活動の充実 <p>小・中の連携による指導方法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に関するアンケート調査の実施と子どもの意識の変容の把握 ・ 効果的な授業交流の計画と推進
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成 1 5 年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

- (1) 国語科，算数科とも全学年で T T による指導を行い，児童の実態に合わせた指導法を工夫したことにより，意欲的に学習に取り組むようになってきた。
 学習についてのアンケートの結果では
 「国語の学習が終わったとき，いつもよく分かる，ほとんど分かる」と思う子どもが 6 月実施時と比べて，1 年 7 % ， 3 年 1 5 % 上昇。
 同じく算数科では「いつもよく分かる」「ほとんど分かる」が 3 年 2 3 % ， 6 年 4 % の上昇である。また，「あまり分からない」という子どもも国語科，算数科ともに 6 月実施時と比べて減少してきている。
 1 2 月に実施した C R T 標準学力検査の結果では，昨年度の得点率と比較して算数は全学年で 0 . 5 から 6 . 2 ポイント，平均で 1 . 7 6 ポイントの向上が見られた。また，国語は 4 学年で 0 . 8 から 7 . 4 ポイントで平均 2 . 1 8 ポイントの向上であった。特に，国語科で取り組んだ「読むこと」では 2 年から 6 年までが昨年と比較して 1 . 3 から 1 0 . 8 ポイント，平均で 4 . 3 ポイントの向上が見られた。
- (2) 単元の終末に行った発展的な学習，補充的な学習では，基礎・基本の定着が十分図られている児童に対しては既習事項を活用して多様な考え方ができる課題を設定し，難易度を変えた課題にどんどん進んだり，基礎・基本の定着が図られていない児童に対しては既習事項の学び直しからチャレンジ形式の類似問題で定着を図るようにするなど，個に応じた教材の工夫をしたことで意欲の高まりが見られた。
- (3) 少人数学習を推進してきたことにより，児童のつまづきに対応することができた。そのことが基礎・基本の定着が図られていない児童の意欲となり，理解の高まりが見られた。
- (4) 小・中連携による授業交流で，中学校の先生が T 3 として 6 年生の算数の学習に参加した。専

門性を生かした的確な指導で児童の意欲が高まっただけでなく、教材研究にも深まりが見られた。
(5) 評価規準による評価を行うことで、子どもの実態を把握するよう努めた。また、自己評価場面を設けることで、子どもの興味や関心を知り、指導に生かすことができた。

2 今後の課題

- (1) 生活に関連したより身近で、子どもたちが解決したい、追究したい、やってみたいという必要性のある課題提示のしかたを工夫した問題解決的な学習の構想と推進を図る。
- (2) 発展的な学習や補足的な学習の教材を開発する。
- (3) 子どもの変容をとらえるための評価の工夫と、個に応じた支援の工夫をする。
- (4) 国語科において、T Tによる児童の実態に応じたより効果的な指導方法を工夫する。
- (5) 計算のはげみ学習で発見された児童のつまづきを回復させる手立てと、定着を確認する場面の工夫を図る。
- (6) C R T等諸検査の結果を分析し、効果的に指導改善に役立てる。

学力把握のための学校としての取組

- 定期的な学力調査の実施と分析
- ・ C R T (年1回 12月実施) ・ N R T (年1回 4月実施)
 - ・ 学習状況調査 (年1回)
 - 定期的な学習に関する意識調査 (6月, 12月の2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 平成15年度 指定訪問授業研究会 日時 6月19日(木) 11月20日(水)
場所 自校
テーマ 児童の実態に応じた課題や指導方法、指導形態の在り方について
対象 大館・比内・田代の小学校
- (2) 下川沿地区保・小・中公合同研修会
日 時 10月25日(土)
場 所 自校 下川沿中学校
テーマ 児童の実態に応じた課題や指導方法、指導形態の在り方について
対象 大館・比内・田代の小学校 下川沿地区の方々
- (3) 教職員実践発表会 日時 1月8日(木) 場所 大館市立中央公民館
テーマ 国語科の読み領域における習熟度別学習の実践
～ 6年「やまなし」の試みを通して
- (4) 平成16年10月下旬に公開研究会を予定

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	TTによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		